

平成二十八年八月四日(木曜日) 正午開演  
午後一時開演

# 観世会荒磯能

東京都中野区東中野二ノ六ノ十四  
於 梅若能楽学院会館  
電話〇三(三三六三)七七四八

## 仕舞

竹生鳥 井上裕之真  
羽衣 小早川泰輝  
鞍馬天狗 田口亮二  
武田清水 武田義也  
岡庭祥大 宗典

## 能

放下僧 寛 大鼓原岡一之 小鼓飯富孔明 中村修一 杉信太郎  
ツレ高梨万里 音隆 坂井 貴信 関根祥丸 木月章行 野村下平 昌司  
後見 坂口 清和 坂井 音晴 北浪 久広 貴裕

## 狂言

鬼の継子 高野和憲 竹山悠樹

(休憩 二十分)

## 能

胡蝶 昌功 大鼓高野彰 小鼓森澤勇司 金子聡哉 坂井音雅  
シテ新江 和人 後見 武田友志 地謡 小椋山浩二 松木千俊  
間 飯田 豪 木月宣行 角幸二 武田文志 中島志津夫

## 附祝言

(終了予定 午後四時十五分)

## 入場料(消費税込)

自由席 四、二〇〇円(前売 三、一五〇円)  
学生席 一、五七〇円

(学生券の購入は30才未満の学生に限らせて頂きます。なお、放送大学及び各大学の通信講座受講生は、学生券の対象外とさせていただきます。)

《発売開始》六月九日(木)より

観世会事務所 〇三(五七七八)四三八〇  
観世ネット <http://www.kanzei.net>  
チケットぴあ 〇五七〇(〇一一)九九九九  
pia.jp/1

◎都合により、曲目・出演者に変更のある場合もございます。

## 次回予告

平成二十八年十月十三日(木) 午後一時始

梅若能楽学院会館

清経 子方泉 岡庭祥大  
船弁慶

## 【あらすじ】

能・放下僧 下総の住人・牧野左衛門某は、相模の利根信俊(ワキ)と口論の末、討たれてしまいます。左衛門の遺児・小次郎(ツレ)は出家した兄(シテ)を説得し、共に仇討ちへ向かいます。(中人)

一方、信俊は夢見が悪いので、武蔵国・瀬戸の三島社へ参詣に向かいます。途中、放下(禅宗の僧から出た大道芸人)に変装した兄弟に出会い、禅問答が好きな信俊は、問答に面白く答える二人に興味を惹かれます。兄は鞆鼓を打ち、謡い物などの芸を見せて信俊を油断させ、その隙に信俊を討ち取り、兄弟は本懐を遂げるのでした。

## 狂言・鬼の継子

夫と死別した女が子供をつれ、夜道を親里へと帰って行く。そこへ鬼が現れ、死んだ夫が極楽へ行けるよう閻魔王に取り成す代わりとして女に自分の妻になれと迫る。子供を大事にしてくれるならばと、やむなく女は承知をし、身支度をする間に鬼が子守をすることになり…。

## 能・胡蝶

吉野の山奥に住む僧(ワキ)が都見物に上り、一条大宮のある古宮で今を盛りと咲く梅の花を眺めていると、人の気配も無い軒端より、一人の里女(前シテ)が現れ、僧に言葉をかけます。僧は不思議に思ひ名を尋ねると、女性は実は胡蝶の精で、春夏秋冬の花々には戯れ遊ぶことができるのに、早春に咲く梅の花には縁がないのが悲しいと述べ、僧に結縁を頼み、夕暮れの空に消えていきます。(中人)

僧が花の下で読経していると、胡蝶の精(後シテ)が現れ、法華経の功力により梅の花と縁を結ぶことが出来たことを喜び、花に戯れながら舞い、歌舞の菩薩となつて、明け方の霞の中へ消えていくのでした。

## 【荒磯能からのお知らせ】

◎当日の演目を中心とした能のお話、「あらいそゝ能を樂しむために」を武田文志が開場三十分後より致します。どうぞお気軽にお越し下さい。

## 【お知らせ】

◎お客様用の駐車スペースはございません。  
◎館内の空調は、お席によっては冷暖房の温度格差がございます。予め御留意頂きますようお願い申し上げます。  
◎公演中の無断撮影・録音は、鑑賞の妨げになるばかりでなく、著作権等の法律に触れますので、固くお断り申し上げます。

能楽はユネスコ第一回世界無形遺産に登録されました。

## 世阿弥のことば一〇〇選

観世宗家はじめ、さまざまな分野で活躍する著名人が選んだ世阿弥のことば。執筆者それぞれの視点で世阿弥のことばと向き合ったショートエッセイ集。

監修 山中玲子  
四六版並製本一六四頁  
本体一、六〇〇円+税  
ISBN9784827909944

檜書店 03-3291-2488  
<http://www.hinoki-shoten.co.jp>